

## 第三者評価結果の公表事項（児童自立支援施設）

### ①第三者評価機関名

社会福祉法人 福井県社会福祉協議会

### ②施設名等

名称：和敬学園

種別：児童自立支援施設

施設長氏名：園長 天谷 泰公

定員：45人

所在地：福井県

### ③実施調査日

平成26年11月7日（金）・14日（金）

### ④総評

#### ◇特に評価が高い点

##### ○支援の基本

施設内の農場を利用した農作業や施設内美化作業、調理実習等グループ活動が定期的に行われ、オカリナやクッション等の制作活動の機会も設けられている。多種多様な経験をする機会や豊かな情操が育まれる活動を通じて、子どもへの健全な成長や問題解決能力の形成に向けた支援がなされている。

##### ○継続性とアフターケア、通所による支援

退所後概ね6か月間、職員による週1回の電話、月1回の訪問面談を行い、その内容を児童アフターケア実施結果書に記録し、家庭復帰後の支援に活かしている。

##### ○アセスメントの実施と自立支援計画の策定、子どもの支援に関する適切な記録

自立支援計画策定要綱に定めた手順に基づき定期的に評価、計画の見直しを行い、毎月末に、子どもとの面接を行い、意向を確認している。また、子どもの生活の様子を入所から退所まで毎日「行動記録票」に記録し、一人一人の行動記録として支援内容に活用している。

##### ○関係機関等の連携、地域との交流、地域支援

児童相談所との会議や「出身学校連絡会」を定期的に開催し、情報の共有や課題解決に努めている。また、施設行事に出身校の先生を招待するなど相互の連携に努めている。

##### ○施設長の責任とリーダーシップ、経営状況の把握

施設長は毎月開催する処遇会議やケース検討会で自立支援の質の向上に係る具体的な取組を指示するとともに、自立支援計画の作成や見直しの際、子どもの個々の支援課題や改善策を具体的に示すなど指導力を発揮している。

##### ○標準的な実施方法の確立、評価と改善の取組

支援についての標準的な実施方法の文書化に加え、福井県和敬学園児童指導および家庭環境の調整実施要綱に基づき、個別にアセスメントシートを作成し、職員が共通認識のもと支援できるよう寮会議等で情報の共有を図っている。

#### ◇改善が求められる点

##### ○健康と安全、性に関する教育

服薬や薬歴のチェック表の作成等服薬管理の必要な子どもの健康管理を適切に行うとともに、職員間での医療や健康、性に関する学習会を実施することが望まれる。

##### ○行動上の問題に対する対応、心理的ケア

自立支援計画に基づく心理的な支援プログラムを策定するとともに、専門家（児童相談所職員以外）による心理的なケアが必要な子どもへの対応に関する職員研修やスーパービジョンを行うことが望まれる。

##### ○子どもの尊重と最善の利益の考慮、子どもの意向や主体性への配慮

子どもの尊重や基本的人権への配慮に係る研修・勉強会を行い、施設全体で権利擁護の意識を高めることが望まれる。

##### ○入所時の説明等、権利についての説明、子どもが意見や苦情を述べやすい環境、被措置児童等虐待対応、他者の尊重

体罰等の起こりやすい状況等や不適切なかかわりの防止に関する研修や話し合いを適宜行い、支援技術を一層向上させることが望まれる。

##### ○職員の資質向上

職員一人一人について知識や援助技術の水準等を踏まえた教育・研修計画を策定し、これに基づく具体的な実施が望まれる。また、職員が受講した研修の有効性と実効性を確認するために、業務等を通じて定期的に教育・研修の評価・分析を行い、その結果を次の教育・研修計画に反映させることが望まれる。

##### ○運営理念、基本方針の確立と周知、中・長期的なビジョンと計画の策定

運営理念や基本方針、質の高い支援の実現に向けて、支援内容、経営、組織体制、人材育成等の現状分析を行い、課題や問題点を明らかにするとともに、その解決に向けた方策等を具体化した中・長期計画を策定するとともに、その具体的な活動や数値目標等の実現に向けた単年度事業計画を策定することが望まれる。

### ⑤第三者評価結果に対する施設のコメント

児童自立支援施設に求められる社会的ニーズが変化し、従来の非行少年だけでなく、広く社会的養護の観点から入所対象児童が広がりました。このため多様な特質や複雑な家庭背景を有する入所児童にあわせた個別の自立支援や関係機関との連携を行ってまいりました。今後はさらに計画的な個別職員研修や施設全体研修を行い、研修結果を反映させながら個別ケアや指導の質を高め、あわせて中・長期的な事業評価や見直し、人材の育成に努めてまいります。

### ⑥第三者評価結果（別紙）

## 第三者評価結果（児童自立支援施設）

### 1 支援

(1) 支援の基本	第三者 評価結果
① 子どもを理解・尊重し、その思い・ニーズをくみ取りながら、子どもの発達段階や課題に考慮した上で、子どもと職員との信頼関係の構築を目指している。	a
② 子どものニーズをみたくのできる日常的で良質なあたりまえの生活を営みつつ、職員がモデルとなることで、子どもの協調性を養い、社会的ルールを尊重する気持ちを育てている。	a
③ 集団生活の安定性を確保しながら、施設全体が愛情と理解のある雰囲気に入れられ、子どもが愛され大切にされていると感じられるような家庭的・福祉的アプローチを行っている。	a
④ 発達段階に応じて食事、睡眠、排泄、服装、掃除等の基本的な生活習慣や生活技術が習得できるよう支援している。	a
⑤ 多くの生活体験を積む中で、子どもがその問題や事態の自主的な解決等を通して、子どもの健全な自己の成長や問題解決能力を形成できるように支援している。	a
⑥ 子どもの行動上の問題を改善するために、自ら行った加害行為などと向き合う取組を通して自身の加害性・被害性の改善や被害者への責任を果たす人間性を形成できるように支援している。	b
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)</p> <p>【特に評価が高い点】 施設内の農場を利用した農作業や施設内美化作業、調理実習等グループ活動が定期的に行われ、オカリナやクッション等の制作活動の機会も設けられている。多種多様な経験をjする機会や豊かな情操が育まれる活動を通じて、子どもの健全な成長や問題解決能力の形成に向けた支援がなされている。</p> <p>【改善が求められる点】 説明責任・賠償責任・再発防止責任といった自己責任について、組織として計画的に育成する取組が望まれる。</p>	
(2) 食生活	第三者 評価結果
① 団らんの場として和やかな雰囲気の中で、食事をおいしく楽しく食べられるよう工夫し、子どもの嗜好や栄養管理にも十分な配慮を行っている。	a
② 子どもの生活時間にあわせた食事時間の設定を含め、子どもの発達段階に応じた食習慣の習得など食育を適切に行っている。	a
③ 自立に向けた食育への支援を行っている。	a
(3) 衣生活	
① 衣服は清潔で、体に合い、季節に合ったものを提供し、衣習慣を習得できるよう支援している。	a
(4) 住生活	
① 居室等施設全体が、子どもの居場所となるように、安全性、快適さ、あたたかさなどに配慮したものにしている。	a
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)</p> <p>【特に評価が高い点】 月1回実施する調理実習やおやつ実習など、調理技術の習得に向けた支援がなされている。子ども自らがテーブル拭き、食器洗い等を毎日行い、食後の後片付けの習慣化するような支援がなされている。また、スキー教室等施設行事の際には外食の機会も設けられ、施設外で食事を体験できるよう配慮がなされている。</p>	

(5) 健康と安全	第三者 評価結果
① 発達段階に応じ、身体の健康（清潔、病気等）や安全について自己管理ができるよう支援している。	b
② 医療機関と連携して一人一人の子どもに対する心身の健康を管理するとともに、異常がある場合は適切に対応している。	b
(6) 性に関する教育	
① 子どもの年齢、発達段階に応じて、異性を尊重し思いやりの心を育てよう、性についての正しい知識を得る機会を設けている。	b
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)</p> <p>【改善が求められる点】</p> <p>服薬や薬歴のチェック表の作成等服薬管理の必要な子どもの健康管理を適切に行うとともに、職員間での医療や健康、性に関する学習会を実施することが望まれる。</p>	

(7) 行動上の問題に対する対応	第三者 評価結果
① 子どもが暴力、不適応行動、無断外出などの行動上の問題を行った場合には、関係のある子どもも含めて適切に対応している。	a
② 施設内の子ども間の暴力、いじめ、差別などが生じないよう施設全体に徹底している。	a
③ 虐待を受けた子ども等、保護者からの強引な引き取りの可能性がある場合、施設内で安全が確保されるよう努めている。	a
(8) 心理的ケア	
① 被虐待児など心理的ケアが必要な子どもに対して心理的な支援を行っている。	b
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)</p> <p>【改善が求められる点】</p> <p>自立支援計画に基づく心理的な支援プログラムを策定するとともに、専門家（児童相談所職員以外）による心理的なケアが必要な子どもへの対応に関する職員研修やスーパービジョンを行うことが望まれる。</p>	

(9) 主体性、自律性を尊重した日常生活	第三者 評価結果
① 日常生活のあり方について、子ども自身が自分たちの課題として主体的に考えるよう支援している。	a
② 子どもの発達段階に応じて、金銭の管理や使い方など経済観念や生活技術が身につくよう支援している。	b
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)</p> <p>【改善が求められる点】</p> <p>退所を見据え、社会生活に必要な知識・行動等を身につけるソーシャルスキルトレーニングなどのプログラムを整備することが望まれる。</p>	

(10) 学習支援、進路支援、作業支援等	第三者 評価結果
① 学習環境の整備を行い、個々の学力等に応じた学習支援を行っている。	b
② 「最善の利益」にかなった進路の自己決定ができるよう支援している。	b
③ 作業支援、職場実習や職場体験等の機会を通して、豊かな人間性や職業観の育成に取り組んでいる。	b
④ 施設と学校との親密な連携のもとに子どもに対して学校教育を保障している。	0
⑤ スポーツ活動や文化活動を通して心身の育成を図るとともに、忍耐力、責任感、協調性、達成感などを養うように支援している。	a
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)</p> <p>【特に評価が高い点】</p> <p>様々なスポーツが日常的に行われ、ふれあいスポーツレクリエーション大会やスキー大会、サーカス鑑賞等も実施されている。</p> <p>【改善が求められる点】</p> <p>計画的な進路支援カリキュラムや職場実習の作業プログラムの策定が望まれる。</p>	

(11)	継続性とアフターケア	第三者評価結果
	① 措置変更又は受入れに当たり継続性に配慮した対応を行っている。	b
	② 家庭引き取りに当たって、子どもが家庭で安定した生活を送ることができるよう家庭復帰後の支援を行っている。	a
	③ 子どもが安定した社会生活や家庭生活を送ることができるよう、通信、訪問、通所などにより、退所後の支援を行っている。	b
(12)	通所による支援	
	① 地域の子どもの通所による支援を行っている。	c
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)</p> <p>【特に評価が高い点】 退所後概ね6か月間、職員による週1回の電話、月1回の訪問面談を行い、その内容を児童アフターケア実施結果書に記録し、家庭復帰後の支援に活かしている。</p> <p>【改善が求められる点】 退所者が集う機会を設け、参加を促すことや退所者グループの活動を支援するような取組が望まれる。</p>		

## 2 家族への支援

(1)	家族とのつながり	第三者評価結果
	① 児童相談所と連携し、子どもと家族との関係調整を図ったり、家族からの相談に応じる体制づくりを行っている。	b
	② 子どもと家族の関係づくりのために、面会、外出、一時帰宅などを積極的に行っている。	b
(2)	家族に対する支援	
	① 親子関係の再構築等のために家族への支援に積極的に取り組んでいる。	b
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)</p> <p>【改善が求められる点】 児童相談所と連携し、家族が抱える問題解決、早期の家庭復帰に向けた家族支援プログラムの整備が望まれる。</p>		

## 3 自立支援計画、記録

(1)	アセスメントの実施と自立支援計画の策定	第三者評価結果
	① 子どもの心身の状況や、生活状況を把握するため、手順を定めてアセスメントを行い、アセスメントに基づき、子どもの個々の課題を具体的に明示している。	a
	② アセスメントに基づいて子ども一人一人の自立支援計画を策定するための体制を確立し、実際に機能させている。	a
	③ 自立支援計画について、定期的実施状況の振り返りや評価と計画の見直しを行う手順を施設として定め、実施している。	a
(2)	子どもの支援に関する適切な記録	
	① 子ども一人一人の支援の実施状況を適切に記録している。	b
	② 子どもや保護者等に関する記録の管理について、規程を定めるなど管理体制を確立し、適切に管理を行っている。	a
	③ 子どもや保護者等の状況等に関する情報を職員が共有するための具体的な取組を行っている。	a
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)</p> <p>【特に評価が高い点】 自立支援計画策定要綱に定めた手順に基づき定期的に評価、計画の見直しを行い、毎月末に、子どもとの面接を行い、意向を確認している。また、子どもの生活の様子を入所から退所まで毎日「行動記録票」に記録し、一人一人の行動記録として支援内容に活用している。</p> <p>【改善が求められる点】 記録内容について、職員の着眼点の統一を図り、子どもの強みや長所等を明確にする等工夫するなど記録の充実が望まれる。</p>		

#### 4 権利擁護

(1) 子どもの尊重と最善の利益の考慮		第三者評価結果
①	子どもを尊重した支援についての基本姿勢を明示し、施設内で共通の理解を持つための取組を行っている。	b
②	社会的養護が子どもの最善の利益を目指して行われることを職員が共通して理解し、日々の支援において実践している。	a
③	子どもの発達段階に応じて、子ども自身の出生や生い立ち、家族の状況について、子どもに適切に知らせている。	a
④	特別プログラムなど子どもの行動などの制限については、子どもの安全の確保等のために、他に取るべき方法がない場合であって子どもの最善の利益になる場合にのみ、適切に実施している。	b
⑤	子どものプライバシー保護に関する規程・マニュアル等を整備し、職員に周知するための取組を行っている。	b
⑥	子どもや保護者の思想や信教の自由を保障している。	a
(2) 子どもの意向や主体性への配慮		
①	子どもの意向を把握する具体的な仕組みを整備し、その結果を踏まえて、支援内容の改善に向けた取組を行っている。	b
②	子ども自身が自分たちの生活全般について自主的に考える活動を推進し、施設における生活改善や自立する力の伸長に向けて積極的に取り組んでいる。	a
③	施設が行う支援について事前に説明し、子どもが主体的に選択（自己決定）できるよう支援している。	a
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)</p> <p>【特に評価が高い点】</p> <p>一人一人の自立支援計画票に基づいて、日々の生活の中で様々な支援が行われ、学習のほかに農業、清掃、当番活動といった様々なプログラムが取り入れられ、施設内での一定のルールの中で集団生活が営まれるよう配慮している。また、施設内では、子どもと様々な職員との交流が図られ、子どもの多面的理解に努めている。</p> <p>【改善が求められる点】</p> <p>子どもの尊重や基本的人権への配慮に係る研修・勉強会を行い、施設全体で権利擁護の意識を高めることが望まれる。</p>		
(3) 入所時の説明等		第三者評価結果
①	子どもや保護者等に対して、支援の内容を正しく理解できるような工夫を行い、情報の提供を行っている。	a
②	入所時に、施設で定めた様式に基づき支援の内容や施設での約束ごとについて子どもや保護者等にわかりやすく説明している。	b
(4) 権利についての説明		
①	子どもに対し、権利について正しく理解できるよう、わかりやすく説明している。	b
(5) 子どもが意見や苦情を述べやすい環境		
①	子どもが相談したり意見を述べたい時に相談方法や相談相手を選択できる環境を整備し、子どもに伝えるための取組を行っている。	b
②	苦情解決の仕組みを確立し、子どもや保護者等に周知する取組を行うとともに、苦情解決の仕組みを機能させている。	b
③	子ども等からの意見や苦情等に対する対応マニュアルを整備し、迅速に対応している。	b
(6) 被措置児童等虐待対応		
①	いかなる場合においても体罰や子どもの人格を辱めるような行為を行わないよう徹底している。	c
②	子どもに対する暴力、言葉による脅かし等の不適切なかかわりの防止と早期発見に取り組んでいる。	b
③	被措置児童等虐待の届出・通告に対する対応を整備し、迅速かつ誠実に対応している。	b
(7) 他者の尊重		
①	様々な生活体験や多くの人たちとのふれあいを通して、他者への心づかいや他者の立場に配慮する心が育まれるよう支援している。	a
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)</p> <p>【特に評価が高い点】</p> <p>女子（中学生以上）は近くの老人福祉施設に職場体験（ボランティア）に出かけている。また、施設行事である園遊会やスポーツレクリエーション大会において近隣住民との交流が行わ</p> <p>【改善が求められる点】</p> <p>体罰等の起こりやすい状況等や不適切なかかわりの防止に関する研修や話し合いを適宜行い、支援技術を一層向上させることが望まれる。</p>		

## 5 事故防止と安全対策

		第三者評価結果
①	事故、感染症の発生時など緊急時の子どもの安全確保のために、組織として体制を整備し、機能させている。	b
②	災害時に対する子どもの安全確保のための取組を行っている。	b
③	子どもの安全を脅かす事例を組織として収集し、要因分析と対応策の検討を行い、子どもの安全確保のためにリスクを把握し対策を実施している。	b
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)  <b>【改善が求められる点】</b>                      ヒヤリハットや事件・事故について、収集された事例をもとにした発生要因分析や職員に対する安全確保・事故防止に関する研修を適宜設けることが望ましい。また、外部からの不審者侵入または保護者による強引な引き取り等を想定した訓練の実施など、子どもの安全確保に向けた一層の取組が望まれる。</p>		

## 6 関係機関連携・地域支援

(1) 関係機関等との連携		第三者評価結果
①	施設の役割や機能を達成するために必要となる社会資源を明確にし、児童相談所など関係機関・団体の機能や連絡方法を体系的に明示し、その情報を職員間で共有している。	a
②	児童相談所等の関係機関等との連携を適切に行い、定期的な連携の機会を確保し、具体的な取組や事例検討を行っている。	a
(2) 地域との交流		
①	子どもと地域との交流を大切にし、交流を広げるための地域への働きかけを行っている。	b
②	施設が有する機能を、地域に開放・提供する取組を積極的に行っている。	b
③	ボランティア受入れに対する基本姿勢を明確にし、受入れについての体制を整備している。	b
(3) 地域支援		
①	地域の具体的な福祉ニーズを把握するための取組を積極的に行っている。	b
②	地域の福祉ニーズに基づき、施設の機能を活かして地域の子育てを支援する事業や活動を行っている。	b
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)  <b>【特に評価が高い点】</b>                      児童相談所との会議や「出身学校連絡会」を定期的に開催し、情報の共有や課題解決に努めている。また、施設行事に出身校の先生を招待するなど相互の連携に努めている。  <b>【改善が求められる点】</b>                      民生委員・児童委員との定期的な会議を開催したり、地域住民に対する子どもの養育相談等を行うなど、地域に開かれた施設運営に努めることが期待される。</p>		

## 7 職員の資質向上

		第三者評価結果
①	組織として職員の教育・研修に関する基本姿勢が明示されている。	b
②	職員一人一人について、基本姿勢に沿った教育・研修計画が策定され計画に基づいて具体的な取組が行われている。	c
③	定期的に個別の教育・研修計画の評価・見直しを行い、次の研修計画に反映させている。	b
④	スーパービジョンの体制を確立し、施設全体として職員一人一人の援助技術の向上を支援している。	a
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)  <b>【特に評価が高い点】</b>                      職責に応じたスーパービジョンが行える体制を施設内に確立し、業務引継ぎ時(1日2回)にスーパーバイザーが相談に応じるほか、職員間での評価、助言が行われている。また、必要に応じ外部の大学から講師を招きスーパービジョンを受けている。  <b>【改善が求められる点】</b>                      職員一人一人について知識や援助技術の水準等を踏まえた教育・研修計画を策定し、これに基づく具体的な実施が望まれる。また、職員が受講した研修の有効性と実効性を確認するために、業務等を通じて定期的に教育・研修の評価・分析を行い、その結果を次の教育・研修計画に反映させることが望まれる。</p>		

## 8 施設の運営

(1) 運営理念、基本方針の確立と周知	第三者 評価結果
① 法人や施設の運営理念を明文化し、法人と施設の使命や役割が反映されている。	a
② 法人や施設の運営理念に基づき、適切な内容の基本方針が明文化されている。	a
③ 運営理念や基本方針を職員に配布するとともに、十分な理解を促すための取組を行っている。	b
④ 運営理念や基本方針を子どもや保護者等に配布するとともに、十分な理解を促すための取組を行っている。	c
(2) 中・長期的なビジョンと計画の策定	
① 施設の運営理念や基本方針の実現に向けた施設の中・長期計画が策定されている。	c
② 各年度の事業計画は、中・長期計画の内容を反映して策定されている。	c
③ 事業計画を、職員等の参画のもとで策定されるとともに、実施状況の把握や評価・見直しが組織的に行われている。	c
④ 事業計画を職員に配布するとともに、十分な理解を促すための取組を行っている。	c
⑤ 事業計画を子ども等に配布するとともに、十分な理解を促すための取組を行っている。	c
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)</p> <p>【特に評価が高い点】 「児童自立支援施設運営指針」に基づく施設の運営理念、基本方針を明文化し、パンフレットやホームページ、施設内掲示文書に記載するほか、施設の玄関や児童の生活寮に基本方針とともに掲示している。</p> <p>【改善が求められる点】 運営理念や基本方針、質の高い支援の実現に向けて、支援内容、経営、組織体制、人材育成等の現状分析を行い、課題や問題点を明らかにするとともに、その解決に向けた方策等を具体化した中・長期計画を策定するとともに、その具体的な活動や数値目標等の実現に向けた単年度事業計画を策定することが望まれる。</p>	
(3) 施設長の責任とリーダーシップ	第三者 評価結果
① 施設長は、自らの役割と責任を職員に対して明らかにし、専門性に裏打ちされた信念と組織内での信頼をもとにリーダーシップを発揮している。	b
② 施設長自ら、遵守すべき法令等を正しく理解するための取組を行い、組織全体をリードしている。	b
③ 施設長は、支援の質の向上に意欲を持ち、組織としての取組に十分な指導力を発揮している。	a
④ 施設長は、施設の経営や業務の効率化と改善に向けた取組に十分な指導力を発揮している。	b
(4) 経営状況の把握	
① 施設運営をとりまく環境を的確に把握するための取組を行っている。	b
② 運営状況を分析して課題を発見するとともに、改善に向けた取組を行っている。	b
③ 外部監査（外部の専門家による監査）を実施し、その結果に基づいた運営改善が実施されている。	a
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)</p> <p>【特に評価が高い点】 施設長は毎月開催する処遇会議やケース検討会で自立支援の質の向上に係る具体的な取組を指示するとともに、自立支援計画の作成や見直しの際、子どもの個々の支援課題や改善策を具体的に示すなど指導力を発揮している。</p> <p>【改善が求められる点】 職員の意見等を反映しつつ施設運営や業務の効率化と改善のための組織的な体制を構築することが望まれる。</p>	

(5) 人事管理の体制整備	第三者 評価結果
① 施設が目標とする支援の質を確保するため、必要な人材や人員体制に関する具体的なプランが確立しており、それに基づいた人事管理が実施されている。	a
② 客観的な基準に基づき、定期的な人事考課が行われている。	a
③ 職員の就業状況や意向を定期的に把握し、必要があれば改善に取り組む仕組みが構築されている。	a
④ 職員処遇の充実を図るため、福利厚生や健康を維持するための取組を積極的に行っている。	a
(6) 実習生の受入れ	
① 実習生の受入れと育成について、基本的な姿勢を明確にした体制を整備し、効果的なプログラムを用意する等積極的な取組をしている。	b
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)</p> <p>【特に評価が高い点】 職員の有給休暇の取得と時間外労働等の状況は、県所管課で一括管理し施設にフィードバックされる仕組みになっている。また、就業環境等に関する職員の意見等について定期的に施設長と個別面談する機会や日常業務の中でスーパービジョンする組織風土が形成されている。</p> <p>【改善が求められる点】 実習受入れと育成について「児童自立支援施設運営指針」に基づき受入れの意義や方針を明文化し全職員で共有するとともに、組織として受入れ体制を整えることが望ましい。</p>	
(7) 標準的な実施方法の確立	第三者 評価結果
① 支援について標準的な実施方法を文書化し、職員が共通の認識を持って行っている。	a
② 標準的な実施方法について、定期的に検証し、必要な見直しを組織的に実施できるよう仕組みを定め、検証・見直しを行っている。	a
(8) 評価と改善の取組	
① 施設運営や支援の内容について、自己評価、第三者評価等、定期的に評価を行う体制を整備し、機能させている。	a
② 評価の結果を分析し、施設として取り組むべき課題を明確にし、改善策・改善実施計画を立て実施している。	b
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)</p> <p>【特に評価が高い点】 支援についての標準的な実施方法の文書化に加え、福井県和敬学園児童指導および家庭環境の調整実施要綱に基づき、個別にアセスメントシートを作成し、職員が共通認識のもと支援できるよう寮会議等で情報の共有化を図っている。</p> <p>【改善が求められる点】 自己評価と第三者評価の結果の異同等を分析・検討し、課題を明確にし職員間で共有するとともに、施設ぐるみで改善策や改善計画を策定し、計画的に取り組むことが望まれる。</p>	